令和８年１１月１２日

令和８年度土木工事標準積算基準書の一部改正について（お知らせ）

令和８年度土木工事標準積算基準書において、記載内容を一部改正しましたので通知します。

１　改正箇所

ニューマチックケーソン工（記載の変更）

Ⅱ-3-④-8　Ⅱ-3-④-11　Ⅱ-3-④-16　Ⅱ-3-④-29　Ⅱ-3-④-33　Ⅱ-3-④-36　Ⅱ-3-④-45

２　改正内容

添付のとおり改正します。

３　適用日

令和８年１１月１２日

建設緑政局総務部技術監理課
積算システム担当

工　種	ニューマチックケーソン工

改正理由	一部改正	改正／現行	

現行

7. 設備等の供用日数

設備等の供用日数は，次表のとおり算定することを標準とする。なお，標準とは，休日に土曜日，日曜日，祝日，年末年始休暇及び夏季休暇を含んでいる工事とする。

ただし，供用日数が標準以外の場合には，積上げて算出することとする。なお，標準以外とは，以下のような工事を想定する。

・緊急性の高い工事などで工期の短縮が必要な場合
・工事中止などで標準工期よりも長期間の工期を必要とする場合
・掘削工と構築工の並行作業(昼間構築・夜間掘削など）を導入する場合

表７．１　供用日数

設備等	供用日数	摘要
共通設備	(A＋B＋C＋E) ×1.54	
排土設備	(A＋B＋E) ×1.54	
掘削設備（遠隔操作用設備を除く）	(A＋B＋E) ×1.54	
掘削設備（遠隔操作用設備）	(A＋B＋E') ×1.54	
艤装設備	(A＋B＋C) ×1.54	
外側足場	(A＋B) ×1.54	
内側足場	(A_1＋B_1) ×1.54	
安全設備	(A＋B＋C) ×1.54	
送気設備	(A＋B＋C＋D) ×1.54	ケーソンが2基以上の場合は，重複する分を減ずること。
救急設備	(A＋B＋C) ×1.54	
予備設備	(A＋B＋C) ×1.54	

ただし，A：ケーソン構築日数（艤装日数含む）
A_1：ケーソン部構築日数（ピアケーソンのピア部を含まず）
B：掘削沈下日数
B_1：ケーソン部掘削沈下日数（ピアケーソンのピア部を含まず）
C：中埋コンクリート打設・養生日数（支持力テスト含む）
D：定置式空気圧縮機組立・解体日数
E：天井走行式ショベル組立・解体日数
E'：遠隔操作設備組立・解体日数

（注）1．送気用空気圧縮機は，最大容量分を同時に据付・撤去する。
2．送気用空気圧縮機は，各ロットの掘削又は構築作業毎に運転台数を求め計上する。
3．艤装用シャフトは，ケーソン1基当り全使用本数の1/2に全供用日数を計上し，残り1/2に全供用日数の1/2を計上する。
4．内側足場は，ケーソン1基当り全内側足場掛m2の1/2に全供用日数を計上し，残り1/2に全供用日数の1/2を計上する。
5．掘削沈下日数は，有人掘削と無人掘削の合計とする。
6．遠隔操作用設備のケーソン構築日数及び掘削沈下日数は，無人掘削開始からの日数を計上する。
7．供用日数は整数止めとし，小数点以下第1位を切り上げるものとする。

改正

現行どおり

表７．１　供用日数

設備等	供用日数	摘要
共通設備	(A＋B＋C＋E) ×1.54	
排土設備	(A＋B＋E) ×1.54	
掘削設備（遠隔操作用設備を除く）	(A＋B＋E) ×1.54	
掘削設備（遠隔操作用設備）	(A＋B＋E') ×1.54	
艤装設備	(A＋B＋C＋E) ×1.54	
外側足場	(A＋B) ×1.54	
内側足場	(A_1＋B_1) ×1.54	
安全設備	(A＋B＋C＋E) ×1.54	
送気設備	(A＋B＋C＋D＋E) ×1.54	ケーソンが2基以上の場合は，重複する分を減ずること。
救急設備	(A＋B＋C＋E) ×1.54	
予備設備	(A＋B＋C＋E) ×1.54	

現行どおり

備考

記載の変更

積算上の注意事項		（控え頁） 1／7

工　種	ニューマチックケーソン工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行

（注）1.　刃口据付面から掘削深3ｍまでは，上表を30％低減する。
2.　軟岩（Ⅰ）は，ピックハンマ等による掘削，軟岩（Ⅱ）は発破を必要とする場合の歩掛である。
3.　軟岩（Ⅱ）の場合，掘削10m3当り含水爆薬3.2kg，導火管付き雷管32個を計上する。
4.　軟岩（Ⅱ）の場合はレッグドリル（空圧式）を，軟岩（Ⅰ）の場合はピックハンマを次の台数計上する。
掘削面積 40m2以上100m2未満2台
空気圧縮機（レッグドリル（空圧式）用）7.5～7.8m3／min［可搬式・エンジン駆動・スクリュ型(超低騒音型)・排出ガス対策型(第3次基準値)］×1台
掘削面積 100m2以上300m2未満2台
空気圧縮機（レッグドリル（空圧式）用）7.5～7.8m3／min［可搬式・エンジン駆動・スクリュ型(超低騒音型)・排出ガス対策型(第3次基準値)］×1台
掘削面積 40m2以上100m2未満2台
空気圧縮機（ピックハンマ）7.5～7.8m3／min［可搬式・エンジン駆動・スクリュ型(超低騒音型)・排出ガス対策型(第3次基準値)］×1台
掘削面積 100m2以上300m2未満3台
空気圧縮機（ピックハンマ）7.5～7.8m3／min［可搬式・エンジン駆動・スクリュ型(超低騒音型)・排出ガス対策型(第3次基準値)］×1台
5.　軟岩（Ⅰ）で亀裂が少なくブレーカを使用しても大塊となるもの及び軟岩（Ⅱ）において中硬岩に近く相当に発破を必要とするものについては，日当り掘削量を30％低減することが出来る。
6.　空気圧縮機は賃料とする。

表８．４　無人機械掘削１日（2組）当りの掘削量（D_a1）　（m3・地山／日）

掘削面積（m2）／面内作業気圧(MPa)	40以上60未満	60以上100未満	100以上300未満
0以上0.40以下	32.0	36.8	57.8

表８．５　無人機械掘削における土質による補正係数（β）

土　質	砂，砂質土，粘性土及び粘土	レキ及びレキ質土	玉石混じり砂レキ	軟岩（Ⅰ）
補正係数	1.00	0.84	0.56	0.33

（注）刃口据付面から掘削深3mまでは，上表を30％低減する。

Ⅱ-3-④-11

改正

現行どおり

4.　軟岩（Ⅱ）の場合はレッグドリル（空圧式）を，軟岩（Ⅰ）の場合はピックハンマを次の台数計上する。
掘削面積 40m2以上100m2未満2台
空気圧縮機（レッグドリル（空圧式）用）7.5～7.8m3／min［可搬式・エンジン駆動・スクリュ型(超低騒音型)・排出ガス対策型(第3次基準値)］×1台
掘削面積 100m2以上300m2未満3台
空気圧縮機（レッグドリル（空圧式）用）7.5～7.8m3／min［可搬式・エンジン駆動・スクリュ型(超低騒音型)・排出ガス対策型(第3次基準値)］×1台
掘削面積 40m2以上100m2未満2台
空気圧縮機（ピックハンマ）7.5～7.8m3／min［可搬式・エンジン駆動・スクリュ型(超低騒音型)・排出ガス対策型(第3次基準値)］×1台
掘削面積 100m2以上300m2未満3台
空気圧縮機（ピックハンマ）7.5～7.8m3／min［可搬式・エンジン駆動・スクリュ型(超低騒音型)・排出ガス対策型(第3次基準値)］×1台

現行どおり

備考

記載の変更

積算上の注意事項		（控え頁） 2／7

工　種	ニューマチックケーソン工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行

9．仮　設　備　工

9－1　仮設備の組立・解体

9－1－1　組立・解体歩掛

仮設備の組立・解体は，次表を標準とする。

ただし，定置式空気圧縮機設備，土砂ホッパ等を同場所に同時に２台以上組立・解体する場合は,次表に台数分を乗じて計上する。

表9．1-1　仮設備の組立・解体歩掛　（1台当り）

名称	規格	単位	土砂ホッパ（ホッパ投入容量10m3）		天井走行式シャベル バケット容量0.15m3		遠隔操作用設備	
			組立	解体	組立 3.9日	解体 3.9日	組立 日	解体 日
土木一般世話役		人	1.7	0.5	2.4	2.4	—	—
潜かん世話役		〃	—	—	—	—	1.8	1.3
とび工		〃	5.7	2.8	—	—	—	—
溶接工		〃	3.9	1.4	—	—	1.0	0.7
潜かん工		〃	—	—	8.7	6.9	9.8	6.7
電工		〃	0.4	0.2	1.1	1.1	10.0	3.3
特殊作業員		〃	—	—	—	—	1.9	—
普通作業員		〃	0.7	0.4	—	—	7.8	7.2
ラフテレーンクレーン運転	［油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型（2014年規制）］ 最大吊上能力25t吊	日	1.9	1.2	—	—	—	—
クローラクレーン燃料	［油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 排出ガス対策型（2014年規制）］ 最大吊上能力70t吊	L	—	—	412	412	180	69
諸雑費率		%	10		23		7	

名称	規格	単位	定置式空気圧縮機設備（29/36m3/min）		クーリングタワー設備（冷却トン数40～60RT）		ホスピタルロック	
			組立 7.7日	解体 5.5日	組立	組立	組立	組立
土木一般世話役		人	3.6	2.2	—	—	1.1	1.1
とび工		〃	7.7	3.3	—	—	3.3	1.1
溶接工		〃	15.4	5.5	1.1	0.5	4.4	1.2
電工		〃	3.3	1.1	—	—	—	—
普通作業員		〃	12.1	5.5	0.8	0.3	3.6	2.2
コンクリート		m3	12	—	—		—	
ラフテレーンクレーン運転	［油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型（2014年規制）］ 最大吊上能力25t吊	日	2.5	1.2	0.37	0.25	1.2	1.2
クローラクレーン燃料	［油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・排出ガス対策型（2014年規制）］ 最大吊上能力70t吊	L	—	—	—	—	—	—
諸雑費率		%	6		24		18	

改正

9．仮　設　備　工

9－1　仮設備の組立・解体

9－1－1　組立・解体歩掛

仮設備の組立・解体は，次表を標準とする。

ただし，定置式空気圧縮機設備，土砂ホッパ等を同場所に同時に２台以上組立・解体する場合は,次表に台数分を乗じて計上する。

表9．1-1　仮設備の組立・解体歩掛　（1台当り）

名称	規格	単位	土砂ホッパ（ホッパ投入容量10m3）		天井走行式シャベル バケット容量0.15m3		遠隔操作用設備	
			組立	解体	組立 4.2日	解体 4.2日	組立 4.9日	解体 3.4日
土木一般世話役		人	1.7	0.5	2.4	2.4	—	—
潜かん世話役		〃	—	—	—	—	1.8	1.3
とび工		〃	5.7	2.8	—	—	—	—
溶接工		〃	3.9	1.4	—	—	1.0	0.7
潜かん工		〃	—	—	8.7	6.9	9.8	6.8
電工		〃	0.4	0.2	1.1	1.1	10.0	3.3
特殊作業員		〃	—	—	—	—	1.9	—
普通作業員		〃	0.7	0.4	—	—	7.8	7.2
ラフテレーンクレーン運転	［油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型（2014年規制）］ 最大吊上能力25t吊	日	1.9	1.2	—	—	—	—
クローラクレーン燃料	［油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 排出ガス対策型（2014年規制）］ 最大吊上能力70t吊	L	—	—	412	412	180	69
諸雑費率		%	10		23		7	

名称	規格	単位	定置式空気圧縮機設備（29/36m3/min）		クーリングタワー設備（冷却トン数40～60RT）		ホスピタルロック	
			組立 7.7日	解体 5.5日	組立	組立	組立	組立
土木一般世話役		人	3.6	2.2	—	—	1.1	1.1
とび工		〃	7.7	3.3	—	—	3.3	1.1
溶接工		〃	15.4	5.5	1.1	0.6	4.4	1.2
電工		〃	3.3	1.1	—	—	—	—
普通作業員		〃	12.1	5.5	0.8	0.3	3.6	2.2
コンクリート		m3	12	—	—		—	
ラフテレーンクレーン運転	［油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型（2014年規制）］ 最大吊上能力25t吊	日	2.5	1.2	0.37	0.25	1.2	1.2
クローラクレーン燃料	［油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・排出ガス対策型（2014年規制）］ 最大吊上能力70t吊	L	—	—	—	—	—	—
諸雑費率		%	6		24		18	

備考

記載の変更

積算上の注意事項		（控え頁） 3／7

工　種	ニューマチックケーソン工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行

（4）足場材設置・撤去100掛m2当り単価表

施工歩掛コード	WB231400 WB231420 WB231440

名称	規格	単位	数量	摘要
土木一般世話役		人		表8.9
とび工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
クローラクレーン燃料	[直圧型動式ウインチ・ラチスジブ型・排出ガス対策型(2014年規制)]最大吊上能力70t吊	L		〃
諸雑費		式	1	
計				

（5）足場材賃料一式当り単価表

施工歩掛コード	WB231410 WB231430 WB231450

名称	規格	単位	数量	摘要
足場材賃料	手摺先行型枠組足場	式	1	式8.1 （必要数量計上）
諸雑費		式	1	
計				

（6）送気用設備運転一式当り単価表

施工歩掛コード	WB231230

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人	1(人)×3(3方)	表5.3 (数量×運転日数)
電工		〃	0.3（人）	表5.4 (数量×運転日数)
電力量 (空気圧縮機用)		kWh	86kWh（50Hz） 110kWh（60Hz）	数量×延運転時間
電力量 (クーリングタワー用)		〃	0.91kWh	必要に応じて別途計上 数量×延運転時間
電力量 (循環水ポンプ用)		〃	5.3kWh	〃
諸雑費		式	1	表5.5
計				

改正

現行どおり

（6）送気用設備運転一式当り単価表

施工歩掛コード	WB231230

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人	1(人)×3(3方)	表5.3 (数量×運転日数)
電工		〃	0.3（人）	表5.4 (数量×運転日数)
電力量 (空気圧縮機用)		kWh	86kWh（50Hz） 110kWh（60Hz）	数量×延運転時間
電力量 (クーリングタワー用)		〃	0.91kWh	必要に応じて別途計上 数量×延運転時間
電力量 (循環水ポンプ用)		〃	5.3kWh	〃
諸雑費		式	1	表5.5
計				

（注）1．電工の作業時間帯は昼間を標準とする。
　　2．電力量(空気圧縮機用)の数量については，使用する電気の周波数(Hz)に基づいて計上する。

備考

記載の変更

積算上の注意事項	

工　種	ニューマチックケーソン工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行

(15) 送気設備（空気圧縮機）１工事当り単価表

施工歩掛コード　WB231310

名称	規格	単位	数量	摘要
空気圧縮機	吐出量29／36ｍ3／min 圧力0.4MPa	台		表4.2 （必要数量計上）
諸雑費		式	1	
計				

(16) 送気設備（その他）１工事当り単価表

施工歩掛コード　WB231320

名称	規格	単位	数量	摘要
圧縮空気清浄機	処理量　1,100m3／h 圧力0.8MPa	台		表4.2 （必要数量計上）
クーリングタワー	冷却トン数40～60RT	〃		〃（　〃　）
循環水ポンプ	口径φ80mm・全揚程30m	〃		〃（　〃　）
レシーバタンク	容量2.5m3 最大圧力0.7～0.9MPa	〃		〃（　〃　）
送気管	口径φ150mm　長さ5.5m 最大圧力1.0MPa	m		〃（　〃　）
諸雑費		式	1	
計				

(17) 安全設備　ケーソン1基当り単価表

施工歩掛コード　WB231370

名称	規格	単位	数量	摘要
酸素集合装置	［マンロック，ホスピタルロック用］酸素容量28m3	基	1	表4.1
酸素呼吸装置	酸素呼吸マスク一式	台	10	マンロック用，表4.1
酸素（医療用）		m3		表10.3
諸雑費		式	1	
計				

(注)酸素（医療用）費用については，共通仮設費の安全費に計上する。

Ⅱ-3-④-33

改正

(15) 送気設備（空気圧縮機）１工事当り単価表

施工歩掛コード　WB231310

名称	規格	単位	数量	摘要
空気圧縮機	吐出量(50/60Hz) 29／36m3／min 最大圧力0.4MPa	台		表4.2 （必要数量計上）
諸雑費		式	1	
計	1			

(16) 送気設備（その他）１工事当り単価表

施工歩掛コード　WB231320

名称	規格	単位	数量	摘要
圧縮空気清浄機	処理量1,100m3／h 最大圧力0.8MPa	台		表4.2 （必要数量計上）
クーリングタワー	冷却トン数40～60RT	〃		〃（　〃　）
循環水ポンプ	口径φ80mm・全揚程30m	〃		〃（　〃　）
レシーバタンク	容量2.5m3 最大圧力~~0.7~~0.9MPa	〃		〃（　〃　）
送気管	口径φ150mm　長さ5.5m 最大圧力1.0MPa	m		〃（　〃　）
諸雑費		式	1	
計				

現行どおり

備考

記載の変更

積算上の注意事項		（控え頁） 5／7

工　種	ニューマチックケーソン工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行

(22) 酸素集合装置設置・撤去（マンロック・ホスピタルロック用）１基当り単価表

施工歩掛コード	WB231380

名称	規格	単位	数量	摘要
特殊作業員		人		表10.4
普通作業員		〃		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(23) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
工事用水中モータポンプ	［普通型(潜水ポンプ)］ 口径φ100mm	機-14	
クローラクレーン（２の組）掘削用	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型・ 排出ガス対策型（第3次基準値）最大吊上能力70t吊	機-16	燃料消費量→98 機械賃料数量→1
コンクリートポンプ車	［トラック架装・ブーム式］ 圧送能力90～110m3/h	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→79 機械損料数量→1.00

Ⅱ-3-④-36

改正

現行どおり

(23) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
工事用水中モータポンプ	［普通型(潜水ポンプ)］ 口径φ100mm	機-14	
クローラクレーン（２の組）掘削用	［油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型・ 排出ガス対策型（2014年規制）］最大吊上能力70t吊	機-16	燃料消費量→98 機械賃料数量→1
コンクリートポンプ車	［トラック架装・ブーム式］ 圧送能力90～110m3/h	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→79 機械損料数量→1.00

備考

記載の変更

積算上の注意事項		（控え頁） 6／7

工　種	ニューマチックケーソン工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行

12－8　ＳＴ内訳表

（1）　機械（機械掘削）

名称	規格	単位	施工歩掛コード		
			WB231220	WB231280	WB231300
潜かん世話役		人	○		
潜かん工		〃	○		
特殊作業員		〃	○		
普通作業員		〃	○		
天井走行式ショベル損料	バケット容量0.15m3	台			○
天井走行式ショベル（遠隔操作型）損料	［中大断面用］ バケット容量0.15m3	〃			○
遠隔操作用設備	［中大断面用］ 遠隔制御盤及び操作機器	〃			○
走行レール（天井走行式ショベル用）	長さ2m×1本	式			○
天井走行式ショベル電力		kWh	○		
クローラクレーン燃料	［油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・排出ガス対策型（2014年規制）］ 最大吊上能力70ｔ吊	L	○		
クローラクレーン運転	〃	日	○		
バケット損料		個		○	
土砂ホッパ損料		基		○	

（2）　送気用設備・運転

名称	規格	単位	施工歩掛コード		
			WB231230	WB231320	WB231310
特殊作業員		人	○		
電工		〃	○		
空気圧縮機損料	吐出量（50/60Hz）29／36m3／min 最大圧力0.4MPa	台			○
圧縮空気清浄機損料	処理量1,100m3／h 最大圧力0.8MPa	〃		○	
クーリングタワー損料	冷却トン数 40～60RT	〃		○	
循環水ポンプ損料	口径80mm・全揚程30m	〃		○	
レシーバタンク損料	容量2.5m3　最大圧力0.7～0.9MPa	〃		○	
送気管	口径φ150mm　長さ5.5m 最大圧力1.0MPa	m		○	
電力料（空気圧縮機用）		kWh	○		
電力料（クーリングタワー用）		〃	○		
電力料（循環水ポンプ用）		〃	○		

改正

現行どおり

（2）　送気用設備・運転

名称	規格	単位	施工歩掛コード		
			WB231230	WB231320	WB231310
特殊作業員		人	○		
電工		〃	○		
空気圧縮機損料	吐出量（50/60Hz）29／36m3／min 最大圧力0.4MPa	台			○
圧縮空気清浄機損料	処理量1,100m3／h 最大圧力0.8MPa	〃		○	
クーリングタワー損料	冷却トン数 40～60RT	〃		○	
循環水ポンプ損料	口径80mm・全揚程30m	〃		○	
レシーバタンク損料	容量2.5m3　最大圧力0.7～0.9MPa	〃		○	
送気管	口径φ150mm　長さ5.5m 最大圧力1.0MPa	m		○	
電力料（空気圧縮機用）		kWh	○		
電力料（クーリングタワー用）		〃	○		
電力料（循環水ポンプ用）		〃	○		

備考

記載の変更

積算上の注意事項		（控え頁） 7／7